

CUTE実験開始

～お嫁入りした11mアンテナ 西と北で大活躍～

首都圏広域地殻変動観測計画(キーストーンプロジェクト:KSP)で整備された4箇所の観測局のうち、三浦局と館山局の11mアンテナはそれぞれ北海道大学と岐阜大学に移管され、これまで関係者の精力的な移設作業と立ち上げ観測が行われてきました。北海道大学の苫小牧局を含む測地VLBI実験はすでに2001年11月から実施されていますが、岐阜大学の岐阜局の移設作業も6月にほぼ完了し、2つの観測局がそろって本格的な観測を実施することができる状態になりました。そこで、通信総合研究所と北海道大学および岐阜大学では、これらのアンテナと通信総合研究所のアンテナを用いた観測をCUTEと名づけて実施していくこととし、6月19日に鹿島・苫小牧・岐阜の3局による1回目の測地VLBI実験(CUTE01)を実施しました。CUTEという名前は、CRL and University Telescopes Experimentの頭文字をとったもので、今後、それぞれの観測局をさまざまに活用しながら、多様な目的のR&D実験を実施していきたいと考えています。具体的には、通信総合研究所の進めている時空標準基盤技術の研究開発における実時間地球姿勢決定のための観測システムの開発、データ解析ソフトウェアの開発や解析手法の高度化の研究などにこの観測網を活用していくほか、宇宙科学研究所のGEOTAILや「のぞみ」といった探査機の相対VLBI観測を行い、飛翔体の位置決定高精度化のための研究にも活かしていくことを計画しています。また、北海道大学や岐阜大学におけるさまざまな目的の研究や学生教育にも大いに活用されるものと期待され、すでにアンテナや観測装置を保有している鹿児島大学や山口大学との連携も視野に入れていきたいと考えています。(Y. K. 記)

